

先行きが見通せない今日、アーティストたちの活動は私たちに力を与えてくれます。ASKが支援しているアーティストたちの活動の一部をご紹介します。

ASKが支援した活動のご紹介

クラウドファンディング ▶ クラシック音楽

元ウィーンフィルのコンサートマスターと関西の若手奏者たちが共演する夢のコンサートが実現

新進気鋭のヴァイオリニスト堀江恵太さんが、コロナ禍の中、自分たちで演奏の機会をつくろうと、関西の選りすぐりの若手弦楽器奏者たちに声をかけて2021年に発足した「スーパークラシックアンサンブル」。その第6回公演に向けて、堀江さんの恩師である元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスター、ライナー・キュッヒルさんに共演を呼びかけたところ、「若い演奏家のみなさんのためなら」とキュッヒルさんが快諾。関西の20代～30代の若い奏者たちと、ウィーンフィルを45年にわたり牽引したレジェンドとの、まさに「夢の共演」が2023年7月3日、吹田メイシアターで実現しました。前半のメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲はキュッヒルさんがソリストとなり、後半のベートーヴェンの交響曲第7番はキュッヒルさんがコンサートマスターとなるプログラム構成。同じ舞台上立った若者たちが、キュッヒルさんにぐいぐいと引っ張られて圧巻の

演奏を披露し、ホールを埋めつくした満員の聴衆から大喝采を浴びていました。



「第6回スーパークラシックアンサンブル特別公演」演奏風景
場所：吹田メイシアター Photo：野田雅也

八千代電設工業伝統芸能支援寄金助成 ▶ 伝統芸能

志芸の会「夏休みキッズ狂言会2023」が開催されました

大蔵流狂言方・善竹忠重さんが主宰する志芸の会は、阪神間を中心に狂言の振興・普及活動に取り組んでおり、特に子どもたちへの教育普及活動を精力的に行っています。同会は10年以上にわたり、毎年夏に「夏休みキッズ狂言会」を神戸市立灘区民ホールで開催しており、2023年8月、その11回目が行われました。この狂言教室は、5回の稽古と、衣装を身に着けて実際に狂言を演じる発表会からなり、小学1年生から中学2年生までの11名が参加。稽古では、発声や正座のしかた、立ち方などの基本的な所作にはじまり、先生の動きや言葉の抑揚を真似ることを通して、狂言の意味や型を学んでいきます。その成果発表の狂言会では、ホールのステージに能舞台が設えられ、浴衣などをまとった子どもたちが2人1組となって狂言を演じます。わずか数回の稽古で、子ども

たちは狂言の所作や声の抑揚を体で覚え、参加者全員が100名を超える聴衆の前でそれぞれ見事に狂言を演じ切りました。



「第11回夏休みキッズ狂言会2023」子どもたちによる成果発表風景
場所：神戸市立灘区民ホール

クラウドファンディング ▶ 舞台芸術

第3回大阪演劇見本市が開催されました

コロナ禍において真っ先に活動の自粛を迫られた演劇界ですが、演劇の灯を絶やさない、大阪の演劇人たちが集まり、劇団ブースの出展と演劇公演を組み合わせた第1回大阪演劇見本市が大阪市中央公会堂で2021年にスタートしました。2022年に第2回が開催されたのに引き続き、2023年9月15日に第3回大阪演劇見本市がグランフロント大阪にあるナレッジシアターで行われました。会場のステージでは、この日限りの公演として、講談師および浪曲師が弁士となり、その巧みな話芸にあわせて俳優たちが物語を演じる伝統芸能と演劇のコラボレーション劇が上演されました。講談は旭堂小南陵さんによる「徳利の別れ」、浪曲は春野恵子さんの「樽屋おせん」。普段は講談や浪曲の話芸で描かれて

いる場面が、時代劇の衣装を身に着けた俳優たちによって描写され、まるで無声映画の実写版を見ているよう。生の舞台の醍醐味が堪能できた舞台となりました。



「第3回大阪演劇見本市」講談と演劇のコラボレーション公演風景
場所：グランフロント大阪ナレッジシアター

一般公募助成 ▶ 美術

「薫りのささやきと echoes in second nature」展が開催されました

アートユニット Yukawa-Nakayasu として活動する現代美術アーティストの湯川洋康さんは、これまで、歴史や習俗などに秘められた人の営為を再解釈／再文脈化することによって、言葉にできない現象や問題をテーマに作品を制作してきました。2024年1月～2月に、大阪市西成区で展覧会「薫りのささやきと」を開催。ガラス面に有機物の溶液をペインティングし、乾燥とともに起きる結晶化現象によって、表面に淡い濃淡による抽象絵画のような形象が広がる作品を展示しました。これらの作品は自然現象に表現の一部をゆだ

ねて生み出されるもので、作家の作為性と偶然の狭間に生じる美しさが際立ちます。それはまた、私たちの感覚にささやくように働きかける薫りのように、揺れ動く私たちの心とそれを支える身体の関係を示唆するものでもあります。



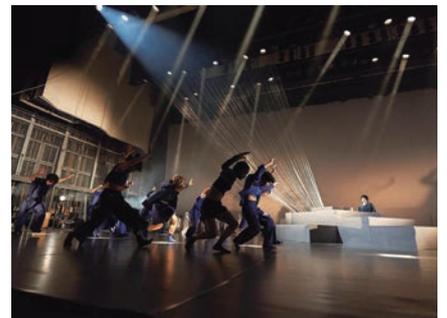
「薫りのささやきと」展より Yukawa-Nakayasu 《remule》(2023)
場所：イチノジュウニノヨン

一般公募助成 ▶ コンテンポラリーダンス

HixTOによる舞台公演「night – 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より」

現在28歳の演出家でダンサーの庄波希さんが2019年に立ち上げたパフォーマンス集団 HixTO (ヒクト)。コンテンポラリーダンスを主体に活動をしながら「身体から社会をデザインする」をコンセプトに掲げ、SONY のカメラロボットとコラボした舞台作品を手がけるなど多方面で注目を集めています。2023年8月、西宮市民会館にて宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」をダンスパフォーマンスによる群像劇として構成した作品「night」を上演しました。演じたのは西宮市民を含むオーディションで選ばれた28名のフレッシュなパフォーマーたち。ジョバンニとカンパネラの友情を幻想的に描いた原作の物語の世界が、若いダンサーたちの躍動感あふれ

る身体の動きによって自由に表現され、開放的な舞台となりました。18歳以下は入場無料とし、夏休み期間中ともあって客席には多くの子どもたちの姿が見られました。



「night – 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より」公演風景
場所：西宮市民会館 Photo: Minetaka Matsuda

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金助成 ▶ クラシック音楽

ヴァイオリニスト上敷領藍子さんによる「おでかけクラシック vol.4」が行われました

関西の若手クラシック音楽家支援を目的に2023年に設置された「トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金」では、さまざまな場所に出向いて音楽を届けるいわゆる「アウトリーチ活動」への支援を行っています。2024年1月5日に枚方市総合文化芸術センターにおいて、東京藝術大学を首席で卒業し、その後オランダで研鑽を積んだ気鋭のヴァイオリニスト上敷領藍子さんによる「おでかけクラシック vol.4」が、同寄金の助成を受けて開催されました。未就学児から参加できるコンサートで、家族みんなで床に座り、まさに「ピクニック感覚」で良質なクラシック音楽が楽しめる地元で評判となり、毎回チケットは完売。今回はゲストにハープ奏者の山地梨保さんを招き、ヴァイオリンとハープの二重奏による室内楽

を演奏しました。途中「もっと楽器のそばに来てもいいよ」と呼びかけると、子どもたちは目を輝かせてハープの周囲に集まり、普段あまり触れることのない生の楽器の音色に熱心に聞き入っていました。



「おでかけクラシック vol.4」楽器の近くで演奏を聴く子どもたち/場所：枚方市総合文化芸術センター

上町台地現代アート創造支援寄金 ▶ 現代美術

詩人とともに上町台地を巡るアート・ウォークツアーが開催されました

大阪市街地東部に南北に横たわる「上町台地」は、太古より豊かな歴史や文化を育んできました。アーツサポート関西「上町台地現代アート創造支援寄金」では、上町台地をテーマとしたさまざまなアート活動を支援しています。この度、アーティストの國政サトシさんが中心となり、天下茶屋の「聖天さん」として親しまれている正圓寺付近の場所が宿す人々の記憶や歴史、あるいは地形が喚起するものに触れるためのアート・ウォークツアーが2024年1月21日に行われました。ツアーの先導役をこの地と深いつながりを持つ詩人の池田昇太郎さんがつとめ、同行した画家で俳人の小左誠一郎さんとともに、幼少期の記憶をたどりながら、ポツリポツリとイヤホンガイドを通じて自身の記憶や意識の

断片を参加者に語っていきます。それらの言葉は風景に豊かな詩情を与え、その「場所」の体験そのものが芸術となることを参加者に再発見させるようなアート・パフォーマンスとなりました。



アート・ウォークツアー「情景の扉～上町台地の波打ち際、聖天さんはバラバラに～」実施風景
参加者を先導する詩人の池田昇太郎さん(右) / 場所：聖天山公園付近 Photo: Takuya Matsumi